

6/28
祝

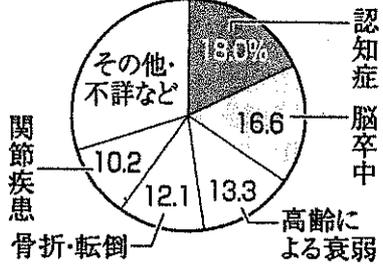
介護理由 認知症1位

75歳以上同土は3割に

27日に公表された2016年国民生活基礎調査では、高齢者らが介護が必要になった主な理由として認知症が18・0%を占め、初めて1位になった。高齢化や、診断を受ける人の増加が要因とみられる。前回の13年調査では15・

8%で2位だった。前回調査でトップの脳卒中が2位(16・6%)になり、3位は高齢による衰弱(13・3%)だった。また、75歳以上の要介護者のうち、介護する人も75歳以上というケースが30・2%と

介護が必要になった主な理由
※厚生労働省の国民生活基礎調査



なり、初めて30%を超えた。65歳以上同士の「老老介護」全体も54・7%で、過去最高を更新した。

介護を主に担う人が同居の

家族という割合は58・7%で、前回調査より2・9%減った。配偶者が25・2%、子が21・8%、子の配偶者が9・7%だった。

介護する同居家族の性別は女性が66・0%、男性が34・0%。男性の割合は過去最高になったが、依然として女性の方が多し。同居家族の68・9%は悩みやストレスが「ある」と答えた。